

### クリスマスパーティ2012

12月13日(木)毎年恒例となったクリスマスパーティは、定禅寺通り光のページェントが鮮やかな絶好のロケーションが臨める東龍門で開催しました。総勢50名の参加があり、猪股宏代表理事の挨拶、奥脇昭嗣みちのくEMS認証機構代表の乾杯の挨拶で和やかに始まり、参加者の名刺交換も積極的に行われていました。閉会にあたり、顧問の吉岡敏明東北大学大学院環境科学研究科教授から、「こうした親睦会がより強い絆となっていくことを期待します」と挨拶がありました。



### みちのくEMS説明会のご案内

「概要説明会」ではシステムを導入するに当たって何から始めれば良いのか? 環境用語の解説や認証登録までのスケジュール、自社の環境活動項目(環境側面の洗い出し方法)構築申込の手続き方法等について分かりやすく解説をさせて頂く実践講習を行っております。参加費は無料です。

年度内では下記日程にて説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。

- 平成25年 1月17日(木) 13:30~15:30
- 2月21日(木) 13:30~15:30
- 3月21日(木) 13:30~15:30

■場所: NPO法人環境会議所東北

### 自動車リサイクルとフィジー共和国

NPO法人環境会議所東北 理事  
株式会社三森コーポレーション 代表取締役 **守屋 隆之**

環境会議所東北の会員の皆様におかれましては、今年一年健やかに、そしてご発展の年であります様にお祈り申し上げます。

私は、環境会議所東北の理事を拝命しておりますが、私の会社も環境ビジネスの一環で、自動車リサイクル事業をしております。少しでも資源の有効活用を促進しようと、廃車になった自動車を自動車リサイクル部品として使って頂き、さらに、鉄、非鉄等の資源化をして循環型社会へ貢献しようと取り組んでいます。お陰様で、最近では日本の自動車リサイクルシステムは世界トップレベルまでになりました。

しかし、日本の自動車が世界中で走っている中、特に東南アジアや南太平洋に車が輸出されていますが、その車の行く末は一流リゾート島のビーチ等で沢山放置されている現状です。そのため私が副理事長を務めている、JARA(全日本自動車リサイクル事業連合)で、



南太平洋の島、フィジー共和国の放置車両の調査に行きました。それがきっかけで私が宮城県とフィジー共和国の経済や文化交流そして環境関係等の促進のお手伝いをさせて頂くことになり、フィジー国立大学の学生のために環境用の自動車リサイクルテキストを英語版で作成して贈呈しました。もちろん環境会議所東北の環境に対する素晴らしいノウハウも提供できたらと、考えております。

そして、世界の一流リゾート地として名高いフィジー共和国がより宮城と東北に身近な国になるよう、私はかけ橋になりたいと思います。今年一年宜しくお願い申し上げます。



フィジー共和国大使にテキスト贈呈

### 環境会議所東北新理事紹介

理事 **藤巻 紀夫**  
株式会社ティ・ビー・エスサービス 常務取締役

仙台で総合ビルメンテナンス業を営業展開させて頂き18年になります。近年の建築物はデザイン、環境とインテリジェントに進化しております。私ども「建築物環境衛生管理業」もこの激しい変化に柔軟に対応し、様々な角度から「エコ・3R」に取り組んで「安心・安全・快適」な空間を提供し続けられるよう日々努力してまいりたいと考えております。



### 編集後記

復興第一弾で開催したエコプロダクツ東北2012は、震災後リニューアルオープンした夢メッセみやぎで開催した。事務所は一階から二階に移動し、事務所から仙台港が良く見える。大型フェリーが停泊し一見すると絵になる風景である。この穏やかな風景が震災当日は一変したことを聞くにつけ想像するだけで足がすくむ。しかしこれからどんな状況においても命は別々であることを認識し、常々の訓練が必要であると改めて思う。復興はまだまだ進んだという域には達していないが瓦礫だけでも大分消えた。今後のドンドン復興が進むなか「人間喉元過ぎれば熱さ忘れる」ことの無い様にしたいものだ。

### 発行・編集 NPO法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷川三丁目10-6  
TEL.022-218-0761 FAX.022-375-7797  
E-mail kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp  
URL http://www.kk-tohoku.or.jp

新入会員をご紹介します。(敬称略) 2012.12月現在 会員数 66

- (株)仙台放送エンタープライズ <http://www.shep.co.jp>
- (株)ジャパンクリーン <http://www.japanclean.com/>(再入会)
- (株)エルヴェ環境 <http://www.eleverkankyo.com/>



# THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT 環境会議所東北会報

2013.1  
No.28

謹賀新年

### 今月のメニュー

- 「エコプロダクツ東北2012」開催終了
- 第12回 環境甲子園
- 野池先生のコラム  
震災復興に貢献するメタン発酵
- 環境会議所東北会員紹介  
●株式会社 ジャパンクリーン  
●有限会社 アクティブサウンド  
●株式会社 建築工房 零(ゼロ)
- クリスマスパーティ2012  
●みちのくEMS説明会のご案内  
●自動車リサイクルとフィジー共和国  
●新理事紹介  
●新入会員紹介  
●編集後記

## 「エコプロダクツ東北2012」開催終了

3.11東日本大震災が起きたため昨年は開催を中止しましたが、この大震災を復興の礎とすべく、一人一人が生活・仕事を見つめなおす場として、またビジネスチャンスの場としての「エコプロダクツ東北2012」を平成24年10月19日(金)~21日(日)、夢メッセみやぎを会場に開催いたしました。出展者は139団体・175小間、来場者は27,316人でした。

東北地方への震災復興応援を込めて、北海道から長崎県まで遠方から企業や団体が初出展で参加していただいたことが目立ちました。従来のエコプロダクツ、新エネルギー、省エネルギー、ソリューションに加えて、環境省の「ストップ!地球温暖化 地域展示会」を展開し、仙台、広島、北九州で開催される環境展示会において、CO2削減やウォームビスに取り組む企業やNPO、自治体の取り組みを紹介するとともに、来場者に「ストップ!地球温暖化宣言」をしてもらいました。また、夢メッセみやぎから復興(幸)応援エリアとして、東日本大震災で甚大な被害を受けた生産者による、宮城県内の農水産物や加工品の産直物産コーナーが設置されました。

他に、企業のCSR報告書、パンフレットの展示コーナーや、村田製作所による自転車型ロボットパフォーマンスショーをはじめ、出展者によるエコステージでのプレゼンテーション、「グリーン購入全国フォーラム2012in仙台」の表彰式、みやぎグリーン購入セミナー、環境省主催の「エコサイエンスショー」、3R推進宮城大会主催の「破牙神ライザー龍」ショー&3Rクイズ、ホンマちゃんのエコライフトークショー、料理研究家こうちゃんの「鍋でウォームシェア」が開催されました。

会議棟においては、専門家講師を招いての「東北ビジネス最前線 エネルギー・フォーラム」、「カーボンフットプリント活用セミナー」、「グリーン購入全国フォーラム2012in仙台」が開催されました。また、「宮城県みどりの小道 環境日記表彰式」では、角田市や石巻市から参加の小学生の表彰式やカーボンフットプリントミニ授業が行われました。この児童たちがエコキッズ探検隊として、クイズラリーをしながら出展者のブースを見学して学習していました。

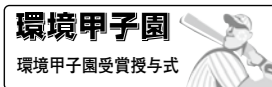
第12回を迎え高校生を対象にした「環境甲子園」は、入賞校によるプレゼンテーションも実施し、研究の成果、研究過程等について詳しく説明がありました。

来場者からは、「大変面白く勉強になった。この開催についてもっと宣伝してほしい」「スマート仙台についてのお話など、普段一般人が聞けないことを知ることができるこのような企画をどんどんやって欲しい」という意見をいただきました。次年度開催に向け、より良き方向へ進めてまいりますので、今後ともご協力の程お願い申し上げます。



エコプロダクツ会場の様子

エコプロダクツ東北2013  
2013年10月24日(木)・25日(金)・26日(土)開催予定



## 第12回 環境甲子園

～快適なエネルギー節約の生活構想実践術～

「生活様式と生活レベル…エネルギーを何から獲得し如何に使うのか?」をテーマに第12回環境甲子園を開催しました。募集期間は5月～8月31日、東北六県の高校生を対象に募集しました。年々応募



校が増え3.11以降は特にエネルギー問題や除塩や塩害から作物や樹木を守ろうということに関心が高く、そうした取り組みが多くなっています。今回の応募から2校が優秀賞を受賞しました。

◆青森県立三本木農業高等学校

【僕らが照らす未来型養鶏 ～カラーLED電球によるエコ養鶏～】

◆宮城県農業高等学校

【桜香る緑の大地へ 津波全壊被災校の挑戦!～劣悪環境に負けない宮城式桜システム植栽法の実現と普及～】

どれもとても素晴らしい取り組みでした。生活の身近な取り組みも大切ですが、ビジネスとしての視点もこれから社会に進む上で大切です。この環境甲子園を通しあらゆる可能性を秘めた高校生の皆様にはより多く参加して欲しいと願っています。

## コラム

### 震災復興に貢献する メタン発酵

日本大学大学院教授  
東北大学名誉教授 野池 達也



東日本大震災から1年9か月経ちましたが、被災地の真の復興はまだこれからです。また、東京電力福島第1原子力発電所の痛ましい事故により、脱原発が国中で叫ばれております。このように時こそ、これまで焼却処分されてきた生ごみ、下水汚泥、直接堆肥化されてきた家畜排せつ物、放射性物質に汚染された農作物などのバイオマスから再生可能エネルギーを生産し、被災地域の復興や、原発事故による電力不足などに貢献すべきであります。メタン発酵によるバイオガス生産の特徴として、対象となる原料が、全国どこにおいても、常時、豊富に存在する点と、施設維持管理の容易さが挙げられます。

わが国の2010年の下水汚泥、生ごみ、家畜排せつ物を全てメタンガスに変えた場合、原油換算で約458万kℓ、電力換算で約188億5,000万kWhとなります。この発電量は、原発(100万kW規模)2か所分に相当する巨大なエネルギー生産ポテンシャルと試算されます。

NPO再生可能エネルギー推進協会の一員として、被災された現地の農家の方々と福島県伊達市霊山町下小国地区に実証プラントを設置し、放射性物質に汚染された農作物や家庭生ごみ等のバイオマスをメタン発酵することにより、放射性物質の濃縮・除去効果や、発生ガスのエネルギー利用について実験を行っております。最近、発生したバイオガスで炊飯が行えるようになりました。私の役割は、現地で「寺子屋教室」を開き、農家の方々にメタン発酵の原理・応用・面白さについて分かりやすく紹介することです。今後も地道に勉強会を続けながら、メタン発酵の普及や啓蒙に取り組んでいきたいと思っております。



## 株式会社 ジャパンクリーン

代表取締役 杉澤 養康 氏

〒980-0021 仙台市青葉区中央3-2-1 (青葉通プラザ10F)  
TEL. 022-223-6011

従業員34名 創立/昭和62年5月 資本金/6,500万円  
URL http://www.japanclean.com

日本の経済と産業は1970年代から飛躍的な発展を遂げ、消費を重ねることによって豊かな手に入れた。その代償のように廃棄物は増え続け、2000年ころからは環境や社会生活の破壊にもつながる、さまざまな廃棄物処理の問題が明らかになった。悪質な不法投棄や土壌汚染問題も頻発に起きている。

(株)ジャパンクリーンは、そうした現実を直視し、「地球環境との共生」と「地域と共生」を理念として、社員の意識改革と業態改革を進めてきた。それは「産業廃棄物の処理モデル企業」という未来像だ。

「めぐりあわせなんでしょう」と杉澤養康(よしやす)社長は言う。廃棄物処理企業としての処理技術・設備が整って、業界にジャパンクリーンあり…という経営地盤ができたところに、あの東日本大震災が起こったのだ。

仙台市蒲生に集められた「がれき」の処理を同社が請け負うことになる。杉澤社長は自社の処理機やトラックをすべて新車に変えた。協力業者にも「新車が無理なら、ピカピカに塗り直せ」と指示を出した。

「がれき、という言い方は嫌なんです。がれきではなく先日までそれらは被災者の方々の大切な財産、生活の道具であり、その中で亡くなった方もたくさんいらっしゃるわけです。だから社員には「大切な遺産を取り扱わせていただいている」と思いなさい」と言うのです。がれきの山ではなく、とても神聖な場所なのです。だから蒲生の現場も美しくして、出入りする者も襟を正して対処しなければ。この言葉にこそ同社の企業姿勢が表れている。

最終処分場が一杯で…経営不振になった処理場4カ所を再生し、岩手・青森両県にまたがる膨大な不法投棄問題では、現場で廃棄物処理を進めてきた同社は「問題があれば、その場所で処理する」という現場主義を貫いている。

処理センターなどを別に作ることは「それこそ無駄というもの。世界には移動式の高性能な処理機がたくさんある。移動機の組み合わせで、ほとんどの廃棄物処理はその場で完了できるんです」。

杉澤社長はまた、「廃棄物処理は、地域や自然環境と共生し、人々が安心して生活していくために欠かすことのできない“大事な仕事”です。だからこそ現場を美しくして、処理方法や経営もすべてオープンにする。社員は“社会に不可欠な大事な仕事に携わっている”プライドを持って働く。ジャパンクリーンなら安心…といわれるようにならなくては」という。同社では、社員一人ひとりが意識を強く持ち、環境効率・環境負荷・環境問題への知識を深めている。

未来に負の遺産を引き継がない、次世代に明るい未来を継承する—そういう企業へ。タテマエではなくホンネでそう語る会社がここにある。



仙台市蒲生のガレキ処分場。整然とした処理と場内管理がなされている。



## 有限会社 アクティブサウンド

代表取締役 照井 健悦 氏

〒981-3117 仙台市泉区市名坂字原田159  
TEL. 022-344-7644

従業員7名 創立/1993年8月 資本金/300万円  
URL http://www.activesound.co.jp

アクティブサウンドは、仙台市に拠点を置く“イベントクリエイター”である。小さなものから、数万人の人が集まる大イベントまで、およそイベントに関するあらゆるノウハウを開発・蓄積し、話題性や公共性のあるイベント、広告効果の高いイベントなどの企画・制作・プロデュースを行っている。社名が示すように、特に「音響制作」では強味を発揮しており、東北のイベント業界で一目置かれる存在に成長した。

学生時代からイベントが大好きで、卒業後広告関連の企業に就職して営業や経営のノウハウを学んだという照井社長。「何より、参加した人たちが笑顔になるのを見るのが楽しい」といい、学生時代から「いすれ独立して…」と考えていたという。

同社が関わる音響制作には「みちのくYOSAKOIまつり」「夏祭り仙台すめ踊り」「エコプロダクツ東北」などがあり、毎年大好評を呼んでいる。

「みちのく…、すずめ踊りなどのように戸外の広いエリアを使って行われるイベントでは、機材や技術的なノウハウが求められますが、協力企業様にもご協力いただき成功できています。また、エコプロダクツ東北も5年ほど前から関わらせていただいておりますが、会議所の皆さんと“波長”も合い(山岡さん好きですよ!)、会員企業にさせていただきました(笑)」。

そんな中、あの東日本大震災が起こる。被災地の状況を見た照井社長は「いまこそ、イベントを通じて復興に協力したい」と考え、スケジュール的に可能なものはすべて受けたという。「結局200近くのイベント実施に携わりました。あるドーナツ企業のイベントでは、福島から岩手までの沿岸被災地、約100カ所で、会場セッティングからPA設定、“ドーナツ体操”の実施まで、自分たちの手でやらせてもらいました。昨年秋には、同社スタッフは疲労と睡眠不足でダウン寸前の状態…。「でも、被災した皆さんが楽しそうに笑いあい、体を動かしているのを見ると『やってよかった』と。こちらが元気をもらって続けられた感じです」という照井社長だ。

「2013年は当社も20周年を迎えます。最近は少し“守りに入った”感じもありましたので、改めて“チャレンジ”する姿勢を大切に、より注目されるイベントを実施して行きたい。そのひとつとして、仙台ハイランド様で「ロードスター魂」という特定のスポーツカーだけを集める、ちょっとコアなイベントを今年も行います。ぜひ見に来ていただきたいですね」。

新たな10年に向けて、多数の復興イベントを成功させた同社ならではの“新鮮で感動的なイベント”が今後、次々とプロデュースされていくに違いない。



被災地で、子どもたちとドーナツ体操をする同社スタッフのみなさん。



## 株式会社 建築工房 零(ゼロ)

代表取締役 小野 幸助 氏

〒981-3213 仙台市泉区南中山4-3-16  
TEL. 022-348-2925

従業員40名 創立/2005年7月 資本金/2,000万円  
URL http://www.zerocraft.com

建築工房・零(ゼロ)の小野幸助代表は、「家づくりは、真に健やかな暮らしを考えることから始まる」といい、「家を語る前に、暮らし方について語りあうことが重要で、その先にその家族にとっての“いい家”が見えてくる」という。企業理念に「健やかな地球・健やかな暮らし・健やかな人生」がうたわれ、建築会社だが中身は「健やかな暮らし創造業」—森づくり、ワークショップ活動、BDF(バイオディーゼセル燃料)事業、これからの暮らしの在り方を考えるセミナーなどを展開し、東日本大震災の被災地支援活動も積極的に行っている。

本当にいい家・真に豊かな暮らしをつくるために、近くにある自然のものを使うことを選択する。そして生産側(山)、製材・流通側(業界)、エンドユーザー側(建て主)への働きかけ、設計・施工の工夫を重ねていく。消費型の家ではなく、手を加えつつ成長する家であることをめざす…それが、建て主、業界、地域、さらに地球全体にとって幸せをもたらす行動であり、地元の森、世界の森を守ること—「家づくりをする者としての、未来に対する責任だと思えますし、私たちの原動力なんです」と小野代表はいう。この考えの上に、同社は「脱原子力発電・脱オール電化住宅 宣言」を行っている。

当然のように、同社では伝統構法(木組み+貫工法)と漆喰などの自然素材による「木の家づくり」が行われている。地域に育った木を使い、地域に合った家を建てる。伝統構法の優れた部分を取り入れ、設計によって「自然とともに快適に暮らせる」構造を実現する。また、木を手刻みで構造材を組み上げる職人技を若い職人たちに伝える…もともと、日本の伝統構法は耐震性も高いのである。

設計は、個々の部屋を廊下でつなぎ合わせるのではなく、家全体をひとつの空間と捉えて、風の通り道を作り光を採りこむ。その家族に必要な“間”を測れば、生活の変化に対応する家になるという。だから「子ども部屋」ではなく「子どもの間」という考え方になる。子ども時代をひとり自分の部屋に籠っていた子と、家族と声が通る「子どもの間」や「だんらんの間」で一緒に過ごし、家族の会話を重ねた子、人間的に成長するのはどちらか、いうまでもない。

同社では、SMIプログラム®を元にした、継続的に学び成長し続ける力と風土を身につけることを目的に、社内塾「バカもの塾」を実施している。その塾訓に曰く、「見えてる自分は10%のお利口さん。まだ見ぬ自分は90%のおバカさん。ならば、僕らはバカものになりたい!」。自分たちの能力を限定せず、徹底的に考え、実行してみる。その先には、社員一人ひとりの“いい人生”があるに違いない。同社の“バカもの”ぶりは、きっと日本を、世界を変えていく“新たな力”となることだろう。



代表取締役 小野 幸助 氏



真の日本の住まい 国土交通大臣賞を受賞した「太陽と樺む建築士の自邸」。